

科目名 (科目番号)		スポーツ障害 治療学演習 (時間割参照)	教員名	鈴木康文 渡邊昌宏 永井 智	学科等	理学療法	選択	履修年次	4
					曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
					授業形態	実験・実習	オフィスアワー	木2 A305研究室	
授業概要		スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニングの手法について学ぶ							
目的・目標		目的:スポーツ理学療法を実践するために必要な知識と技術を習得する。 目標:1.スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられる理学療法の手法を取り入れたコンディショニングの方法を実施できる。 2.パフォーマンスの向上を目的としたコンディショニング(トレーニング)の方法を実施できる							
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容						
	1	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：ストレッチングの方法を理解し、ストレッチングが実施できる。 学習内容：ストレッチングの目的や生理的作用、種類と使い分け方について学ぶ。						
	2	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：ストレッチングの方法を理解し、ストレッチングが実施できる。 学習内容：ストレッチングの目的や生理的作用、種類と使い分け方について学ぶ。						
	3	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：スポーツマッサージの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：スポーツマッサージの目的や生理的作用、種類と使い分け方について学ぶ。						
	4	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：スポーツマッサージの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：スポーツマッサージの目的や生理的作用、種類と使い分け方について学ぶ。						
	5	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：スポーツマッサージの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：スポーツマッサージの目的や生理的作用、種類と使い分け方について学ぶ。						
	6	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：身体各部におけるテーピングを基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：テーピングの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	7	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられるコンディショニング手法	到達目標：身体各部におけるテーピングを基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：テーピングの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	8	スポーツ外傷・障害の予防や治療に用いられる物理療法	到達目標：疾患・症状に応じた物理療法の選択と実施ができる。 学習目標：物理療法の目的や分類、生理的作用、実施にあたっての留意点について学ぶ。						
	9	スポーツ外傷・障害の治療に用いられる理学療法手技	到達目標：関節モビライゼーションの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：関節モビライゼーションの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	10	スポーツ外傷・障害の治療に用いられる理学療法手技	到達目標：関節モビライゼーションの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：関節モビライゼーションの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	11	スポーツ外傷・障害の治療に用いられる理学療法手技	到達目標：関節モビライゼーションの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：関節モビライゼーションの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	12	スポーツ外傷・障害の治療に用いられる理学療法手技	到達目標：関節モビライゼーションの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：関節モビライゼーションの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	13	スポーツ外傷・障害の治療に用いられる理学療法手技	到達目標：関節モビライゼーションの方法を理解し、基本的技術レベルで実施できる。 学習内容：関節モビライゼーションの目的や効果、基本的注意事項、実施手順について学ぶ。						
	14	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの方法	到達目標：パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの方法の選択と実施が行える。 学習内容：（コーディネーション・スタビリティ・アジリティ）トレーニングの実践。						
15	スポーツ外傷・障害のリハビリテーションプログラムとその実践	到達目標：疾患・症状に応じたリハビリテーションプログラムの選択と実施が行える。 学習内容：代表的なスポーツ外傷・障害のリハビリテーションプログラムの実践。							
成績評価の方法・基準		対面時：実技実習における習得状況確認テスト（60%） ならびに実習課題のプレゼンテーション（40%）を行い、評価表に基づき評価を行う。 オンライン時：実習課題のプレゼンテーション（100%）を行い、評価表に基づき評価を行う。							
教科書		IDストレッチング 第2版	鈴木重行・平野幸伸・鈴木敏和 著			三輪書店			
参考図書		モビライゼーションテクニック セルフスポーツマッサージ 改訂版 クリニカルマッサージ	Christopher H.Wise・Dawn T.Gulick 著 星虎雄 著 James H.Clay David M.Pounds 著			医歯薬出版 講談社 医道の日本社			
教員からのメッセージ		実技を交えながら授業を展開するので、毎回運動のできる服装・靴で参加すること。 集中講義となるので、開講日を確認すること。 企業チームでトレーナー経験のある理学療法士がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。							